

共生・協働の地域社会づくり

鹿児島県内で元気に共生・協働に取り組む団体を紹介します。

鹿児島市

NPO法人

《問い合わせ》0969(222)8787

◎ピンクリボンがごしま



ピンクのリボンに込められた命への思いをあなたへ

乳がん撲滅のシンボルマークピンクリボン。ピンクリボン運動は、乳がん患者が女性の8人に1人とされているアメリカで、早期発見・早期治療を啓発・推進する活動として80年代に始まった。乳がんが家族を亡くした遺族の「この悲しみを繰り返さないために」という願いが世界共通の運動へとつながり、ここ鹿児島でもその活動が展開されている。

NPO法人ピンクリボンがごしまは、乳がんに関するイベントに参加した医師、保健師、乳がん体験者などが中心となって平成17年7月に設立された。「成人女性の20人に1人が乳がんを発症する今日です。決して人ごとではなく、自分にも起こりう

ることなんです」と話すのは理事の花田理絵はなだり絵さん。広報を担当する花田さんは、グラフィックデザインの仕事を通じて医療の現場を見続けてきたことが活動へのきっかけとなった。

乳がんは、30歳から64歳までの女性のがんと死亡原因のトップだが、正しい情報と対処方法を知ることによって早期発見ができ、治る確率が高い病気といわれている。それにもかかわらず、誰にも起こりうる身近な病気であることへの認識が不足していることや病気にに関する情報の少なさもあって、本県の乳がん検診率は10%前後にとどまっております。年々死亡者数は増え続けている。

こうした現状から、病気に対する理解を深め、一人でも多くの女性の命を守るために、さまざまな経験や職業を持つ会員20人が、ネットワークとフラットワークを駆使して啓発活動に努めている。定期的なマンモグラフィ検診や月に一度の自己検診による早期発見の方法、診断・治療の情報を伝えるため、県内各地での講演活動や相談業務、啓発グッズの販売などを行い、一人で悩むことなく、相談や検診への一歩を踏み出すことへと導いている。

健康への意識の高まりや行政、企業との協働により、年々運動の輪は広がっている。昨年10月のピンクリボン月間には、鹿児島

市内のタクシー協会の協力を得て、2000台のタクシー

にピンクリボンステッカーを貼り、多くの人が目にする機会をつくった。

期間中にタクシーに乗車した花田さんは、ドライバーが生き生きとピン

クリボン運動の説明やパンフレットを配布している場面に遭遇し、市民への啓発の広がりを実感することとなった。「企業との連携は、社員や家族へつ

ながり、大きな啓発の輪となっています。乳がんは女性だけの問題ではなく、家族、友人といった大切なパートナーの問題としてとらえてもらうことも大切だと思っています。今後は、死亡率が減少するといわれる検診率70%に近づけるため、県内各地のネットワーク化を図りながら、インターネットでの情報提供や医療機関との連携をさらに進め、一人でも多くの女性に乳がんへの意識を持つてもらえるように取り組んでいきたいです」。

胸につけられた小さなピンクリボンのバッジに、命の重みを感じた。



理事 花田さん

鹿児島の女性は、家族の健康を優先してしまいます。自分の健康にも気をつけながら毎日を大切に過ごしていきましょう。



▲イベントでは、乳がんに関するクイズを行い、理解促進に取り組む。



▲ピンクリボンのステッカーを貼ったタクシーが検診の重要性を訴えた。



▲企業での啓発講演。講演内容や規模は相談に応じて。